

共働きママが悩む「小1の壁」とは？

共働きママにとって、子供が保育時間の長い保育園から夜間の預け場所の少ない小学校に上がる時期は、保育園時代の働き方の変更を強いられ、働き続けることが困難になるケースもあることから、「小1の壁」とも呼ばれています。共働き世帯は増加傾向にあることから、小学校入学前後の子供を持つ共働きママに着目し、子供が小学生に上がる際に、どのようなことで悩み、解決しているのか、どのようなサポートを望んでいるのかについてご紹介します。

※週30時間以上労働を「共働き」、週30時間未満労働+専業主婦を「非共働き」としています。

「小1の壁」を知っていますか？

「小1の壁」の認知度 共働きママ64.1%、共働きパパ30.3%

図1は、未就園児～小学生の長子を持つママとパパに、「小1の壁」についての説明文を提示したうえで、認知度をきいた結果です。共働きママの64.1%が「説明文の内容を知っている」と答えたのに対し、非共働きママは37.8%にとどまっています。また、パパの認知は共働き、非共働き共に2割台と、知らない人が約半数となっています。昨今子育てに積極的な男性が増えていと言われていますが、本調査の男性回答者の年代は30代後半から40代後半が大半を占めており、若い世代に比べて子育てへの関心や関与が高くない世代と考えられます。

共働きママを悩ます「小1の壁」。同じ年頃の子供をもつ親であっても、共働きママ以外には、自分ごとと捉えられていないようです。

図1. 「小1の壁」の認知

『小1の壁』の説明文
 小学校入学後、子どもを夜間まで預けることが困難になり、ワーキングマザーが働き方の変更を強いられる問題を指す。
 小学生の子どもを預かる公的な学童保育では放課後の延長保育がないか、あっても時間が短いため、夜間の延長保育がある保育園よりも預かり時間が短くなる。

